

平井文子 Fumiko Hirai

2003年4月～2004年3月

ガーダ・ザーヘル(秘書)

当時のニュース

赴任直前の2003年3月にイラク戦争が始まりました。そのため、エジプト直行便が一時停止されたため、ヨーロッパ回りで2日かけてカイロに参りました。世界は騒然としていましたが、カイロ市内は戦争の直接的影響は感じられませんでした。12月にサダム・フセインが米軍に逮捕されました。当時、日本からの留学生はアメ大、カイロ大を中心に沢山おり、彼らが学振事務所には入れ代わり入りし、日本からの研究者や在カイロ日本人の来訪も多く、大変賑やかでした。カイロ日本人会の事務所が、在留邦人の減少によりマリオット・ホテルから学振事務所の近くのマンションに移転しておりました。



*右から、当時平井所長、秘書ガーダさん、辻村純代さん(元センター長)、保坂修司さん(元センター長)

From right, Director Hirai, Secretary Gadha, Former Director Tsujimura, and Former Director Hosaka

当時のセンターの様子や職務内容

秘書は前年度に引き続きガーダ・ザーヘルさんで、事務所と9階のセンター長住居の掃除にサワサンさんが(時々彼女の2人の娘さんを伴い)週2回来ていました。2003年度は学振の独立行政法人化に伴い、9月と3月の2回にわたり決算報告を提出しなければなりません。事務補助として2人の日本人に協力してもらいました。目新しいことは、秋になり学振カイロセンターのホームページを立ち上げたことです。ちなみに、ガーダさんは7月に結婚され、学振関係者が多数結婚式に招かれ、現代エジプト風の結婚式に参加しました。

2003年度には6回にわたる定例懇話会(添付資料)、毎週1回のアラビア語写本読書会の開催に加え、新たに女性留学生を中心としたジェンダー研究会を立ち上げました。また、フスタート遺跡見学会開催、恒例のブックフェアへの往復車サービスを提供しました。前年度から男性留学生を中心として行われていた「カイロ書店案内」作成の作業を年度末にほぼ完成させました。当時の学振諸活動に参加していた多くの留学生が現在日本各地の大学で活躍しております。

The war in Iraq began in March 2003, right before my assignment at the Cairo center was about to begin. I couldn't get a direct flight to Egypt and had to go via Europe on a two-day trip. There was unrest all over the world, but one couldn't feel the direct impact of the war in Cairo. In December, the US army

captured Saddam Hussein. At that time, many foreign exchange students were coming to Egypt, mainly to study at Cairo University and the American University, and were regular visitors at the JSPS center. Ms. Ghada Zaher had worked there as the secretary since the previous academic year. Many visiting researchers and others residing in Cairo frequented the center. It was a busy time. Due to a sharp drop in Cairo Japanese Club membership, they moved their gatherings from the Marriott Hotel to a building near the JSPS center.

Ms. Ghada Zaher had worked there as the secretary since the previous academic year. Ms. Sawsan, who was responsible for cleaning the center and the residence on the ninth floor, would come twice a week. Sometimes she would bring her two daughters. In academic year 2003, we became an independent corporation, and thus had to file financial statements twice a year, in September and March. Two Japanese personnel assisted me with the office work. The newest step was setting up a homepage for the JSPS Cairo center in the fall. Ms. Ghada married in July of that year, and invited the members of the center. I got to attend a modern Egyptian wedding.

In 2003, we held six regular open lectures. Once a week we hosted a reading group in Arabic. We also started a gender studies class aimed at female researchers, organized sightseeing trips to the remains of Fustat, and provided transportation to and from the Cairo Book Fair. By the end of the year, the Cairo Bookstore Guidance program, started the previous year and mainly meant for male researchers, was nearly complete. Many of the students who participated in these JSPS-organized activities are now flourishing in universities all over Japan.

بدأت الحرب في العراق في مارس 2003 وكانت تحديداً قبل تسلمي وظيفتي في مكتب القاهرة، لم تكن رحلتي إلى القاهرة مباشرة بل كان علي أن أقضي يومين في أوروبا. لم أشعر أن للحرب تأثيراً مباشراً على القاهرة. وفي شهر ديسمبر قبضت القوات الأمريكية على صدام حسين، وفي نفس هذا التوقيت قدم الكثير من الطلاب اليابانيين للدراسة في جامعة القاهرة والجامعة الأمريكية. لقد كان وقتاً مفعماً بالحركة؛ فقد زادت الزيارات وتردد كثير من الباحثين على مكتب الجمعية بالقاهرة. أما بالنسبة لجمعية نادي اليابانيين فقد تم نقل مقرها من الماريوت إلى شقة في مبنى مجاور لمكتبنا. كانت الأستاذة غادة زاهر سكرتيرة المكتب، وكانت تقوم سوسن بأعمال النظافة بالمكتب، وأيضاً بشقتي في الدور الثالث، كانت تأتي مرتين في الأسبوع، وكانت أحياناً تصطحب معها إحدى ابنتيها لمساعدتها. وفي عام 2003 سعياً إلى توثيق الجمعية كمكتب حكومي مستقل، ما أوجب علينا القيام بالمراجعات المالية لمكتب الجمعية مرتين في العام مرة في شهر مارس وأخرى في شهر سبتمبر. وساعدني في ذلك اثنين من اليابانيين الذين عملوا في المكتب. وكان من الأشياء الجديدة التي حدثت أنه في الخريف تم تدشين صفحة على الإنترنت للمكتب، وبالمناسبة فقد تزوجت الأستاذة غادة في شهر يوليو وحضر حفل زفافها الكثير من المترددين على مكتب الجمعية. فأتيت لي فرصة المشاركة في حفل زفاف مصري. وفي عام 2003 تم عقد ست ندوات، كما كانت تقوم طالبة يابانية بعقد جلسة قراءة باللغة العربية مرة أسبوعياً، كما كنا نوفر وسيلة نقل من وإلى معرض الكتاب. كما قام الذكور من الطلبة اليابانيين من المشاركة في إعداد كتاب (دليل المكتبات في مصر).

小林 春夫 Haruo Kobayashi

2004年4月～2005年9月

鳥山純子(助手)、ガーダ・ザーヘル(秘書)

当時のニュース

私の在任中（2004年4月から2005年9月まで）は、エジプトの社会状況が比較的安定していたこともあってか、留学生の数も多く（大学院生だけで10名以上）、日本人からの研究者の訪問も頻繁にありました。私もそのような機会を利用して若い研究者と交流したり、日本からの調査団に同道して各地の史跡や村落などを訪問したりしました。当時の貴重な体験は、今でも楽しい思い出として鮮明に残っています。

センターの様子や職務内容

当時の助手は鳥山純子さん、秘書はガーダさんでした。二人ともセンター運営について熟知しており、着任当初は大いに助けられました。またイベント等の開催にあたっては、留学生のサポートも不可欠でした。

センターでは定例懇話会（年に5回程度）の他に、国立図書館のナグワ（Nagwa Mustafa）先生を迎えての写本研究会、留学中の若手研究者を中心としたジェンダー研究会、マグディ（Magdy Helyl）先生を迎えての書道教室などを開催していました。

私の在任中にエジプト人 JSPS フェローの同窓会を立ち上げましたが、その準備にあたってはカイロ大学農学部の手ニー・シェミーさん（Prof. Hany El-Shemy）にご尽力いただきました。同窓会がその後も順調に運営されていることを大変うれしく思い、現会長のイブラヒム・タンタウィさんをはじめとする役員の方々に厚くお礼申し上げます。

センターは日本とエジプトとの研究交流拠点として、今後も大きな役割を期待されることでしょう。私のころに比べてセンター長の在任期間が延びていることは本格的な事業展開にとってよいのではないかと思います。もっとも運営費の削減や社会環境の変動など、厳しい状況でのお仕事に苦労は尽きないと存じますが、引き続きのご尽力をお願いいたします。

末筆となりましたが、カイロ研究連絡センターの発展と、関係者のみなさまのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

During my tenure (April 2004 - September 2005), conditions in Egypt were quite stable and there were many Japanese exchange students in Cairo (more than ten post-grads alone). There were frequent visits from Japanese researchers as well. I used those opportunities to communicate with young researchers, and accompany Japanese research groups to see ancient remains and settlements. These were precious experiences that I still have vivid pleasant memories of today.

Ms. Junko Toriyama was my assistant and Ms. Ghada was our secretary. They both knew how to run the center, which really helped when I first arrived. They were also indispensable in supporting exchange students preparing for events and whatnot.

In addition to the regular open lectures (5 times a year), we also held gender studies classes for young students, reached out to Dr. Nagwa Mustafa from the National Library for a group study of manuscripts, and reached out to Dr. Magdy Helyl for calligraphy classes.

During my tenure, I tried to organize meetings for JSPS alumni. Prof. Hany El-Shemy of Cairo University's Faculty of Agriculture helped me out a lot on that front. I'm glad that the alumni meetings are going well, and I thank alumni manager Ibrahim Tantawi and all those in charge for that.

I can only hope the center will play an even bigger role as a place for research and interactions between Egyptians and Japanese people. I think making the term of the JSPS center directorship longer will help improve the running of the center. I know that budget cuts and ever-changing society pose a lot of challenges, but I hope they will keep on making the effort.

Finally, I pray from the bottom of my heart for the continued prosperity of the JSPS Cairo center and the continued success of all those associated with it.

كانت فترة عملي في مكتب القاهرة من أبريل 2004 حتى سبتمبر 2005 يمكننا أن نقول إن الأوضاع في مصر في هذه الفترة كانت مستقرة بشكل كبير مما زاد عدد الطلاب اليابانيين والباحثين الذين جمعنتي بهم علاقات طيبة تركت ذكريات جميلة أتذكرها حتى اليوم. في فترة عملي بالقاهرة كانت منسقة أعمال المكتب الأستاذة "تورى ياما جونكو" وكانت الأستاذة عادة سكرتيرة المكتب. لقد كانتنا خير عون لي في فترة عملي وأدتنا أعمال المكتب بكل إخلاص، وقدمنا الإرشاد للطلبة اليابانيين. بخلاف المحاضرات التي كانت تعقد خمس مرات في العام، كانت تقوم الدكتورة نجوى مصطفى بعمل حلقات تدرس فيها المخطوطات للطلبة وصغار الباحثين، كما كان يأتي الأستاذ مجدى هليل لتدريس الخط العربي. أما بالنسبة لجمعية أعضاء خريجي الجمعية اليابانية فقد ساعدني الدكتور هانى الشيمي الأستاذ بجامعة القاهرة بكلية الزراعة في إدارة شئونها وأنا سعيد لما وصلت إليه الجمعية في الوقت الحالي؛ لذا أريد أن أشكر بشدة رئيسها الدكتور إبراهيم طنطاوي وكل القائمين عليها.

坂井 定雄 Sadao Sakai

2005年9月～2008年4月

吉村武典、熊倉和歌子(双方、留学生スタッフ)

当時のニュース

ムバラク政権の末期で、いたるところに、いわば末期的症状があらわれていた。帰国を前にした2008年4月上旬、ニュースにならなかつた重要な事態が発生した。突然のように、全国の工場でも、大学でも、いわば無言の一斉ストライキが行われたのである。カイロ大学に行くと、授業はほとんど休講、多くの教員は出勤せず、学生は集まっていたが、勇ましい演説などは全くない。親しい教授に聞くと、どこからか「休め」の指令が回ってきたのだと、口を濁した。カイロ市内も空港に通じる道路も、いつもの渋滞はなく、がらんとしている。商店の多くも店を閉め、気味が悪いほどだった。この無言のゼネストは、反ムバラク勢力のリベラルな若者グループやムスリム同胞団が手を結び、10を超える組織の代表たちが取り決め、実行した2011年「1月25日革命」の手始めだった。

センターの様子や職務内容

JSPS Research Center, Cairo(以下 JSPS)を、日本の公的団体の正規の研究センターとして、エジプト当局に届け出、承認してもらうこと。それまでの地位は、単なる日本の団体のカイロ事務所に過ぎなかつた。また、センター長の旅券も一般的な滞在 VISA に過ぎなかつた。ムバラク政権が不安定になる中、欧米の人権団体の事務所が閉鎖されるなど、政府が外国の団体の活動を圧迫するケースが続出していた。JSPS は無事だったが、秘密警察と思われる人物が管理人から情報収集したり、学振懇話会に正体不明の人物が参加したりしたことから、わたしは、日本の公的機関のカイロ事務所として地位を正式に認めてもらう必要を感じていた。

このため、まず日本大使館で大使と、文科省からの文化担当館員にエジプト外務省への働きかけをくりかえし、要請した。しかし、結局は担当館員がエジプト側に電話をしてくれたぐらいだった。そのため、エジプト外務省に正面から申請すべく、外務省に有力なコネがある、Bahaa Zaghlul 氏(Zaghlul 氏は日本に留学し、東京工大で金属工学の博士号を取得した。私の在任中、最もお世話になった人)に仲介の労をとっていただき、外務省の教育・文化局副局長の Mona Saudi 大使に話してもらった。大使の求めに応じて、以下(a)(b)(c)(d)の内容の説明資料を2007年10月、11月に、3回にわたって提出した。

(a)申請の主旨と経緯、JSPS の英文説明資料

(b)カイロ・センターの活動実績、人的、政府が支出する予算的規模

(c)日本大使館との関係

(d) J S P S の奨学金で海外留学したエジプト人の同窓会 (JSPS Alimni Association in Egypt)

エジプト人の同窓会が 2007 年 6 月 10 日、エジプト政府から公式に登録された。事実、3 回目の文書提出後、Mona 大使から「文書はこれで整った、良い結果を待つように」との連絡があったが、それ以後回答はなく、数か月後、Mona 氏も他の役職に転任してしまい、この件は達成できなかった。

JSPS の支援を受けている、受けていないに関わらず、日本の研究機関、大学とエジプトの研究所、大学との協力研究、シンポジウムや研究会合のさまざまな支援（研究機関と研究者の紹介、会合の会場や交通手段などのアレンジなど）。人文科学だけでなく、医学、薬学、工学そのほかの部門に支援対象を広めるよう努めた。

一例を挙げると、肝臓疾患治療に重点を置く薬用植物の分野での研究開発に関する国際シンポジウム（注：エジプトは C 型肝炎ウイルス感染が最悪の国の一つ。一方で薬用植物の長い歴史があり、多数の研究者がいる）

中心の研究所：日本：富山大学天然薬物研究所
：エジプト・国立研究センター

研究支援機関：日本・JSPS
：エジプト・技術的および技術的諮問研究基金（TTCSRF）

会場：国立研究センター（エジプト・カイロ）

期日：2007 年 5 月 20～23 日

参加研究者：エジプト 60 人、日本 10 人、英国 2 人、サウジアラビア 2 人

月例の懇話会では発表者は短期滞在中の日本人研究者が多かったが、イラク人の著名なウード奏者のミニ・コンサートは超満員で、もっとも感動的だった。日本人留学生支援した学生では現在、研究者として活躍している人が多い。

他には、日本大使館、日本人社会との良好、密接な関係づくり。私の赴任当初、大使館は JSPS センターを日本の正規の公的機関の現地駐在事務所とは認めておらず、新年互礼会はじめ公的行事の招待も連絡もなかった。大使に JSPS カイロ・センターについて説明し、他の公的機関並みに扱うようになった。

また、中東各国への働きかけ。レバノン、トルコの大学を訪問し、JSPS も説明をするとともに、日本、欧米諸国との研究支援、研究協力の実状について情報収集を行い、JSPS との協力を進める方向で一致した。2007 年 10 月にチュニジアで行われた、日本・チュニジア間の科学研究協力協定に基づく大規模なシンポジウム（カンタウィ・フォーラム）では、JSPS とそのカイロ・センターについて、基調報告をおこなった。

During the final years of Mubarak's presidency, news of his terminal illness spread everywhere. Before I returned to Japan in the beginning of April 2008, a serious situation was unfolding but never made it to the news. It seemed to have happened all at once in factories and universities all across the country, a simultaneous "silent strike" so-to-speak. At Cairo University, lectures were often canceled. Many professors weren't showing up, and students would gather but no one would be brave enough to speak. I asked a professor friend of mine what was happening. He prevaricated, saying there were orders to "slow things down" from somewhere. There were no more traffic jams in the streets of Cairo or on the road to the airport. In fact, the streets seemed empty. Many stores were closed. It was very eerie. In that "silent strike", young rebels from anti-Mubarak political forces, the Muslim Brotherhood, and representatives of over ten different organizations joined together and made the decision to go forward with the "January 25" revolution of 2011.

We reached out to the Egyptian authorities to recognize the JSPS Cairo center as a legitimate research center. Up to that point, it had merely been a business office in Cairo with facilities to support Japanese research. The center's director had nothing more than a regular visa in his passport. During the unrest of the Mubarak regime, American and European organizations' offices were closed and other governments curtailed the activities of their offices abroad. The JSPS center was fine, but people who were supposedly secret police came collecting information, and unidentified individuals would come to attend our lectures. I felt we needed to formalize our status as an officially recognized Japanese organization.

I urged the Japanese ambassador and a cultural official from the Ministry of Education to keep pushing the Egyptian Ministry of Foreign Affairs. Eventually I got the cultural official to call to his Egyptian counterpart. I thought perhaps I should appeal directly to the Foreign Ministry. So, I asked Bahaa Zaghlul, who has powerful connections at the Foreign Ministry, to connect me with someone. (Bahaa Zaghlul studied in Japan and has a PhD from the Department of Metallurgy at Tokyo Technical College. He's the person who helped me the most during my tenure in Cairo.). I was able to talk to Ambassador Mona Saudi, the Vice Director of the Bureau of Education and Culture. Complying with Ambassador Mona's request, I filed documents explaining the points below three different times in October and November of 2007.

- (1) The details and reasons for this request, English materials explaining about the JSPS.
- (2) The Cairo center's activity records, personnel, and budget provided by the government.
- (3) Our relationship with the Japanese Embassy.
- (4) The JSPS Alumni Association in Egypt.

On June 10th 2007, the JSPS Alumni Association in Egypt was officially registered with the Egyptian government.

After I handed in the documents for the third time, Ambassador Mona said that all the documents were in order and that I was to expect a positive result. But I never heard from her again. Within a few months she had been appointed to a different position, and I was unable to resolve the issue.

With or without JSPS support, Japanese research organizations and universities continued to cooperate with Egyptian research institutes and universities. Through joint research, symposiums, and seminars, they established new research connections, arranged meetings and transportation, and so on. They tried to expand their cooperation beyond humanities and social sciences to new fields, like medicine, pharmaceuticals, and engineering.

One example: an international symposium about research and development on medicinal herbs effective in curing liver disease (Note: Egypt has one of the worst hepatitis C infection rates. It also has a long history of medicinal herb use and many researchers in that field.)

Target research facilities:

Japan: Institute of Natural Medicine, Toyama University

Egypt: National Research Center

Organizations assisting the research:

Japan: JSPS

Egypt: Technical & Technological Consulting Studies & Research Fund

Meeting place: National Research Center (Cairo, Egypt)

Date: 20~23 May 2007

Participating Researchers: Egypt (60 persons), Japan (10 persons), England (2 persons), Saudi Arabia (2 persons)

Many of the monthly lectures were presented by Japanese experts staying for short-term visits, but once there was a mini-concert by a well-known Iraqi oud player. The event was packed with people and was the most exciting lecture of all. Many of the Japanese foreign exchange students that assisted us back then are now successful researchers.

The Japanese embassy maintains a good close relationship with the Japanese community. But when I was first appointed, the Japanese embassy didn't officially recognize the JSPS center, and wouldn't contact us with invitations to official functions like their New Year's party. I explained to the embassy about the JSPS Cairo center and they came to officially recognize it as a Japanese organization. Next, I wanted to make the most of that official recognition throughout the Middle East. So, I visited universities in Turkey and Lebanon and talked about the JSPS, while I collected information on the state of research support and cooperation offered by Japan, America, and Europe, and campaigned for their further cooperation with the JSPS. In October 2007, a major symposium was held in Tunisia. This event, the Kantaoui Forum, was one result of a Japan-Tunisia agreement for cooperation on scientific research. There, I presented a basic overview of the JSPS and its Cairo center.

وفي السنوات الأخيرة من فترة حكم الرئيس مبارك شاعت أخبار مرضه في كل مكان، وقبل عودتي إلى اليابان في بداية أبريل 2008 وقعت واقعة عظيمة، ولكن لم تتداول إعلامياً، وبدون سابق إعلان حدث إضراب في المصانع والجامعات، فألغيت المحاضرات في جامعة القاهرة، وغاب الأساتذة، وأغلقت الكثير من المحال التجارية حتى الطريق من القاهرة إلى المطار بدا خاوياً من وسائل المواصلات. وفي أثناء هذا الإضراب الصامت اتحدت الفئات المعارضة لسياسات مبارك مع الإخوان المسلمين وعشر منظمات أخرى، وعقدوا العزم على القيام بثورة في 25 يناير 2011.

لقد تواصلنا مع السلطات المصرية من أجل أن يصل مكتب الجمعية إلى الصورة المتعارف عليها الآن كمكتب الجمعية اليابانية لتطوير العلوم بالقاهرة، وحتى توصلنا إلى هذه النقطة لم يكن المكتب سوى مجرد مكتب للباحثين اليابانيين، ولم يكن لدى رئيس الجمعية سوى إقامة في جواز سفره. وفي فترة الإضرابات في حكم مبارك تم غلق مكاتب المنظمات الأمريكية والأوروبية، وأوقفت الأنشطة التي كانت تقوم بها هذه المنظمات، على الصعيد الخارجي كان مكتبنا وضعه طيب، ولكن كان أحياناً يأتي الأمن لجمع معلومات عن المكان، ومعرفة ما يتداول في الندوات جعلنا أشعر بأهمية إقرار المكتب كمؤسسة يابانية حكومية. لهذا الغرض حثت السفير الياباني بسفارة اليابان ووزارة الثقافة لدفع الخارجية المصرية نحو مساعدتنا في هذا الشأن، ولكن في النهاية اقتصر الأمر على مجرد المكالمات التليفونية.

كان علينا أن نتصل بشكل مباشر على الخارجية المصرية، وساعدني في ذلك أستاذ وثيق الصلة بالخارجية، وقد درس في اليابان وحصل على الدكتوراة من جامعة طوكيو. وقد كان خير عون لي في فترة أقامتي بمصر. وأيضاً الأستاذة منى سعودي نائب رئيس مكتب التعليم والثقافة بالخارجية. وفي أكتوبر ونوفمبر من عام 2007 قمت بتقديم هذه البيانات على ثلاث مرات:

أ شرح بيانات المكتب باللغة الإنجليزية.

ب الأنشطة والميزانية الحكومية للمكتب.

ج علاقة المكتب بالسفارة.

د رابطة المصريين الذين درسوا بمنح الجمعية اليابانية لتطوير العلوم في اليابان وكونوا لأنفسهم رابطة (جمعية) سموها جمعية أعضاء الهيئة اليابانية لتطوير العلوم. وأشهرها في 2007/6/10. وبعد تقديم الوثيقة الثالثة ظننت كما قالت سعادة السفارة منى (ستكون الأمور على ما يرام) ولكن لم يأت لنا رد. ثم بعدها بعدة أشهر انتقلت السفارة إلى العمل في مكان آخر. ولم أنجح في حل تلك المعضلة.

بغض النظر عن ما كان مكتب الجمعية يتلقى دعماً أو لا؛ فإن المنظمات البحثية اليابانية تعاونت مع الجهات البحثية والجامعات المصرية عن طريق التعاون بين

الباحثين وتوفير أماكن الالتقاء لهم، وفرص عقد المؤتمرات العلمية، ولم يقتصر التعاون البحثي على العلوم الإنسانية، بل اتسع ليشمل الطب والصيدلة والهندسة وغيرها. فعلى سبيل المثال قد تم عقد مؤتمر دولي حول مرض الكبد وعلاجه بالأعشاب.

ملاحظة: (إن مصر وللأسف لديها أعداد هائلة من مصابي فيروس سي، ولكنها أيضاً لديها تاريخ طويل في مجال استخدام الأعشاب).

المعاهد البحثية: معهد الصيدلة الطبيعية بجامعة توياما اليابان، المركز القومي للبحوث مصر.

الهيئات المنظمة: اليابان (الجمعية اليابانية لتطوير العلوم) ومن مصر (الصندوق التكنولوجي لدعم الدارسين والباحثين).

المكان: المركز القومي للبحوث القاهرة .

الزمن: من 20 الى 23 مايو 2007.

المشاركين: 60 مصري، وعشرة يابانيين، 2من أوروبا، و2 من السعودية.

وفي إحدى الندوات (اللقاءات الشهرية) التي كان يحاضر فيها الباحثون اليابانيون الذين يأتون إلى مصر في مدد إقامة قصيرة. شارك فيها بالعزف أيضاً عازف عود عراقي مما أضاف لليوم إحساساً خاصاً.

إن السفارة اليابانية لم تكن تعترف ضمناً بمكتب الجمعية كمؤسسة حكومية، ولم تتصل بنا أو تدعونا إلى أي من المناسبات حتى احتفالية رأس السنة، ولكن عندما تحدثت للسفير الياباني وأطلعته على كينونة مكتبنا، بدأ يتعامل مع مكتبنا كونه مؤسسة يابانية حكومية، وبدأت أتوجه بعدها نحو الشرق الأوسط فزرت الجامعات في لبنان وتركيا. بل وحتى أوروبا وأمريكا؛ فبدأت تتعاون بحثياً مع الجمعية اليابانية. وفي أكتوبر 2007 عقد في تونس مؤتمر كبير تم فيه إبرام اتفاقية بحث علمي مشترك بين اليابان وتونس وفي هذا المنتدى ألقى كلمة تحدثت فيها عن مكتبنا وقمت بتعريفه.